



owner's manual



お客様へ

この度はPGO iBuBu125をお買上げ頂きまして、誠に有難うございます。

PGO から発行されている取扱説明書は英文で作られております。

従って、簡単では御座いますが、機能及び取扱い方法について説明している箇所を

日本語にてご理解頂ける様、本書を作成いたしました。

乗車される前に必ず本書をお読み頂けます様お願い致します。

不具合等でお困りの場合は、お買い求めの販売店様へご相談ください。

PGO 日本代理店

NOVELFORCE INC. JAPAN

目次

安全に運転する為の注意点	1	ブレーキ操作	17
各部の名称	2	エンジンならし運転	18
車体識別	3	駐車	19
メインスイッチ	4	定期整備及び簡単な修理方法	19
スピードメーター	5	定期点検一覧表	20
ハンドルスイッチ	6	エキゾーストコントロールシステム点検	21
ハンドルロック	7	エアクリーナーエレメントの清掃	21
シートロック	7	スパークプラグの点検	22
燃料タンクキャップ	7	ギアオイルの交換	22
ラゲージボックス	8	ブレーキ調整	23
運行前の点検	9	リヤブレーキ点検	23
ブレーキ/ブレーキ調整	10	フロントブレーキ点検	23
ブレーキ点検	11	ブレーキオイル点検	24
スロットルグリップ	12	フロントフォーク点検	24
エンジンオイル	12	ヒューズ交換	25
エアクリーナーエレメント	12	バッテリー	25
タイヤ	13、14	携帯電話充電用ソケット	26
ランプ・シグナルライト	14	燃料排出装置	27
各種スイッチ	14	EMS簡易点検	27
ガソリン	14	EMSコードテーブル	28
ブローバイガス還元装置	15	諸元表	29
乗車する際の注意事項	16	保証書	30、31
エンジンスタート	16	保証登録書	32
エンジン暖機	16		

安全に運転する為の注意点

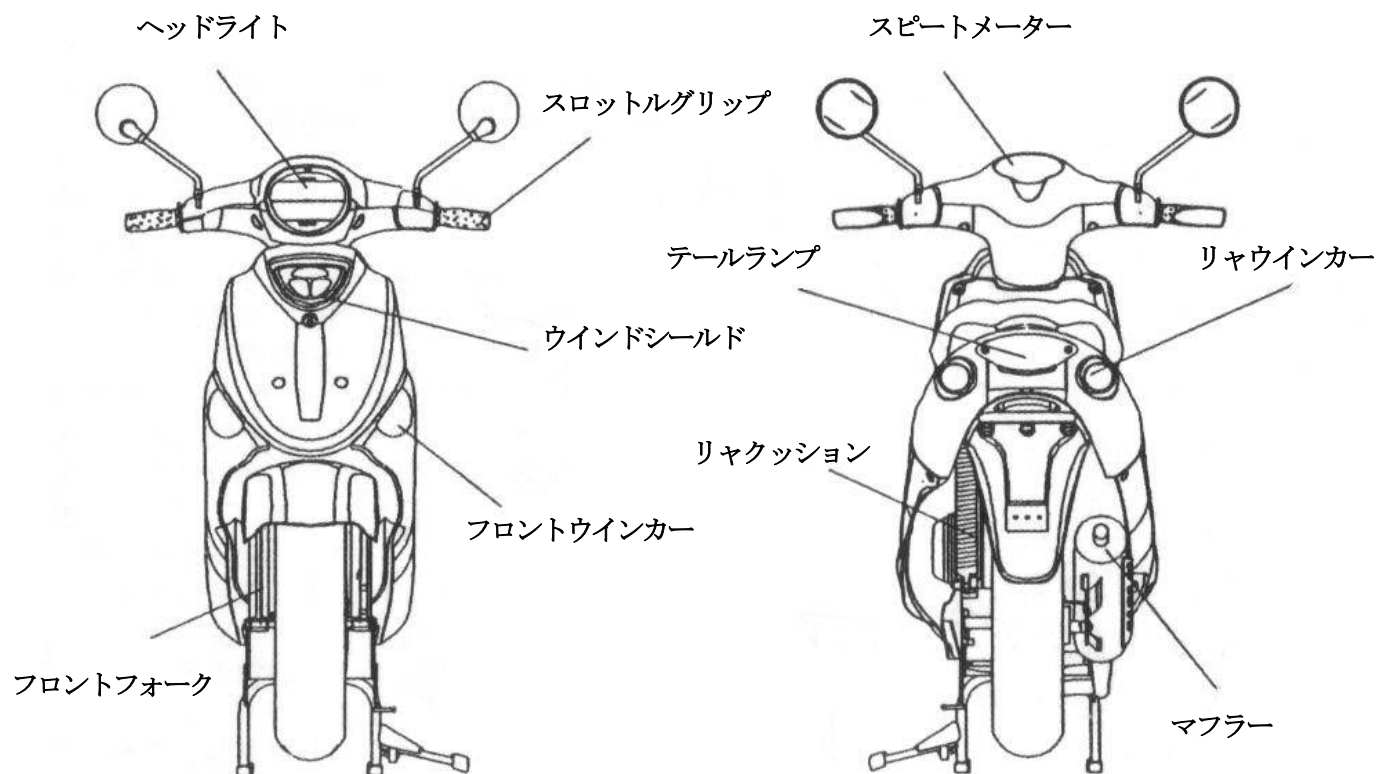
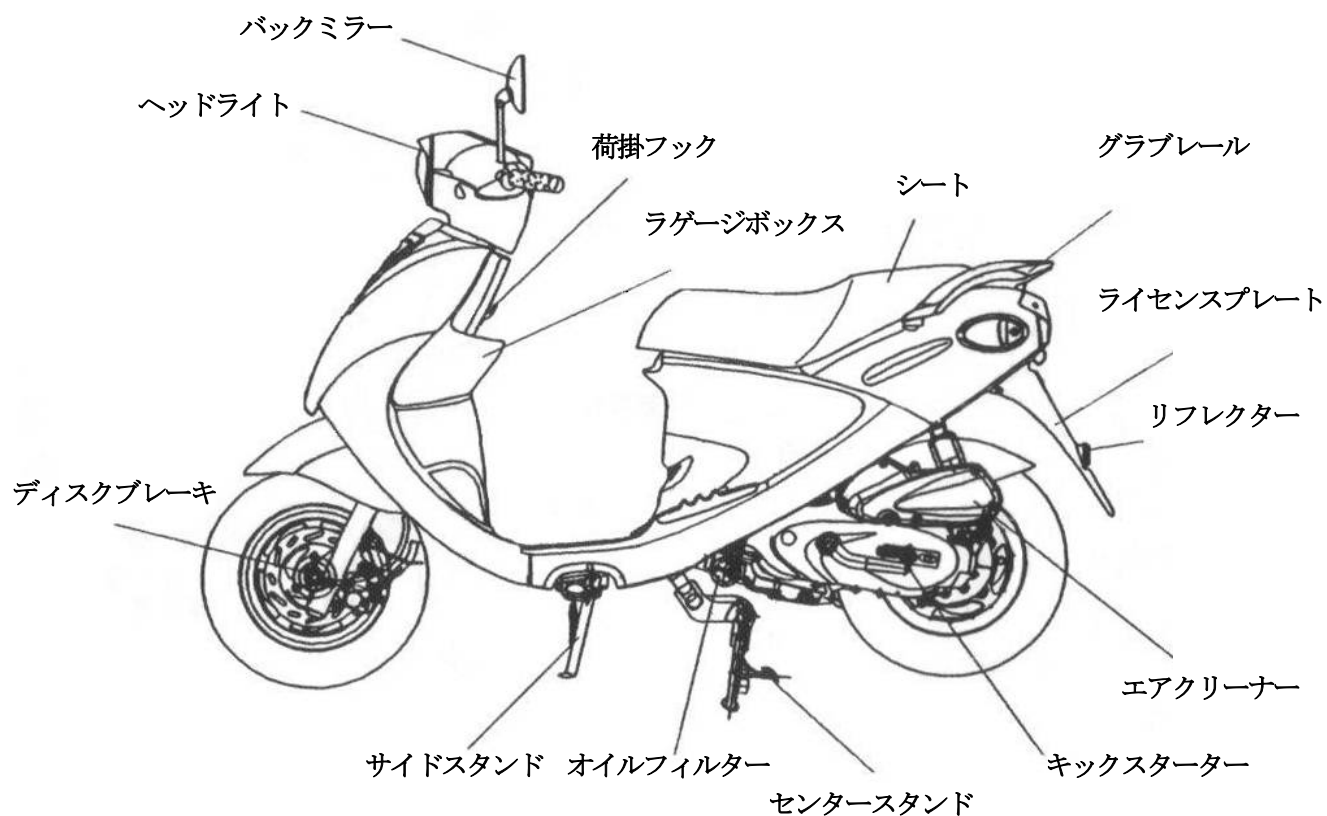
▲ 警告

運転時は十分な余裕を持ち、以下の用件に留意する必要があることを予め了解下さい。

安全運転のために

1. 運行前点検は必ず実行し、修理が必要であれば修理をしてから運行してください。
2. 多くの事故は経験の少ないライダーに関係します。慎重に運転しましょう。
3. 乗車時は運転操作を妨げない服装で、明るい色の物を着用しましょう。
4. 交通法規を遵守してください。過度な速度は事故につながります。速度は控えめにしましょう。
5. 他の交通に迷惑を掛けない様に気を付けましょう。交差点や駐車場の出入り口等は特に注意が必要です。
6. 乗車時はハンドルをしっかり持ち、足はステップボードに乗せ、正しい姿勢で乗りましょう。後席に乗車する人はステップに足を乗せ保持してください。
7. エンジンを掛けたまま車両から離れないようにしてください。
8. 悪路を走行する時はスピードを落とし、強い衝撃を受けないよう操作してください。

各部名称



車体識別

- 1 エンジンナンバーは左側クランクケース打刻されています。



- 2 フレームナンバーはフロントインナーカバーの内側に打刻されています。



注意

フレームナンバー及びエンジンナンバーは部品の注文時に必要なだけでなく、盗難等に遭われた時に車体識別の為に必要です。メモを取り保管してください。

メインスイッチ

メインスイッチはイグニションとランプやランプ関係を制御します。操作方法は以下のようです。



"○"

電源を入れ、エンジンがかかります。この場合、キーは抜けません。

"⊖"

全ての電源が切断されます。この場合、キーは抜けます。

"⊗"

この位置は、ハンドルがロックされ、全ての電源が切断しているので、キーは抜けます。

ページのハンドルロック操作方法を参照して下さい。

【PUSH左に回す】

キーが"○" 或いは"⊖"にある場合、シートを開けられます。

注意：

スクーターを乗らない時は"⊖" 或いは"⊗"位置に合わせてカギを抜いて下さい。

スピードメーター



① EMSチェックランプ

鍵をONにしたときセルフテストの為、5秒間点灯します。

運転中に点灯した場合はPGO正規取扱店にて点検を依頼してください。

② ハイビーム表示（青）

HI/LO ビームスイッチのHIを使っている時にこの表示ランプが点きます。

③ 速度表示

④ 燃料計

燃料タンク内のガソリンの量を示します。Fは満タンを示しガソリンタンクの容量は6.0L

です。燃料指針が赤い部分に入りかけた時は、早めにガソリンを補給して下さい。

⑤ 走行距離メーター

⑥ ターンシグナルライト（緑）

方向指示器作動時に点滅します。



ハンドルスイッチ

① ハイビームとロービームのスイッチ

ハイビームを使用する時は、スイッチを “  ” にして下さい。

ロービームを使用する時は、スイッチを “  ” にして下さい。

② 方向指示器スイッチ

スイッチを右側にすると右折の合図になり、スイッチを左側にすると左折の合図になります。

スイッチを放すと、自動的に中央位置に戻ります。ウインカを消したい場合は、スイッチを押して下さい。

③ ホーンスイッチ

このスイッチを押すと、ホーンがなります。

④ スタータースイッチ

スターターボタンはヘッドライトスイッチの下にあります。前輪ブレーキレバー或いは後輪ブレーキレバーを握った状態で、スタータースイッチを押すと、エンジンがかかります。

⑤ ヘッドライトの確認

日本仕様は常時点灯式に変更されておりますのでエンジンがかかっている時には、

ヘッドライト、テールライト、メーターライトが点灯します。

エンジンを切ると全てのライトが消えます。

ハンドルロック

メインスイッチにキーを差し込んで下さい。そして"⊗"の位置にまわすと同時にハンドルを左にきります。ハンドルがロックされますので、キーを抜くことができます。

注意

走行中は"⊗"の位置にしないで下さい。



シートロック

シートを開ける時は、キーを時計の反対方向に押しながら回すと、ロックが解除されます。



燃料タンクキャップ

キーを時計の反対方向にまわして、シートを開けます。燃料タンクキャップの真ん中にあるプッシュボタンを押すとキャップが取れます。



ラゲージボックス

ラゲージボックスはシートの下部に設置してあります。最大積載量は5 k g です。



トランクを使用するときは次のことに注意してください

1. 最大積載量は5 k g です。
2. 直接日光が当たっている時やエンジンが掛かっている時、耐熱性の低いものは入れないで下さい。
3. 貴重品や壊れやすいものは入れないで下さい。
4. 雨の日や洗車時は、内部に濡れることがありますので、濡れないよう防水カバーを掛けて下さい。濡れた物は防水材料で包み、トランクに入れて下さい。
5. スクーターから離れる時は、シートをロックして下さい。

運行前の点検

注意

乗車する前に、その都度点検を行って下さい。上記項目の点検は安全快適にお乗り頂く為に必ず行うようにして下さい。

点検中に異常を発見したら、修理するか、PGO取扱店へお持ち下さい。

項 目	作 業 手 順	ページ
フロントブレーキ	ブレーキの作動状態、クリアランス、ブレーキオイルレベルや油漏れの点検を行います。必要であれば、型番FMVSS DOT3またはSAEJ1703のオイルを補給する。	23-24
リヤブレーキ	ブレーキの作動状態とクリアランスを点検し、必要であれば調整する。	23
スロットルグリップ	滑らかできるか点検し、必要であれば、グリースを塗布するか或いは調整する。	13
エンジンオイル	オイルレベルを点検し、必要であれば、補給する。	13
タ イ ヤ	タイヤの空気圧、磨耗、破損状態を点検する。	13-14
コントローラ／ゲージケーブル	スムーズに作動しているか点検し、必要であれば、グリースを塗布する。	-
ブレーキレバー	スムーズに作動しているか点検し、必要であれば、グリースを塗布する。	10月11日
センタースタンド	スムーズに作動しているか点検し、必要であれば、グリースを塗布する。	-
アセンブリー／ネジ	全てのパーツとネジ類を点検し、必要であれば、調整するか或いは締付けをする。	-
燃 料 タ ン ク	燃料レベルを点検し、必要であれば、補給する。	14
ランプ／シグナルライト	良い状態で作動しているか点検する。	14

「*」マークの作業についてはPGO取扱店で整備をおすすめ致します。

ブレーキ

ブレーキ調整

1. ブレーキを使用する前にリヤブレーキレバーの遊びを調整してください。

遊びは10・20mm が適正範囲です。

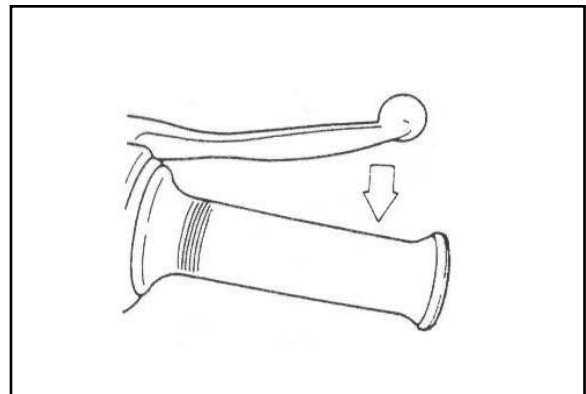
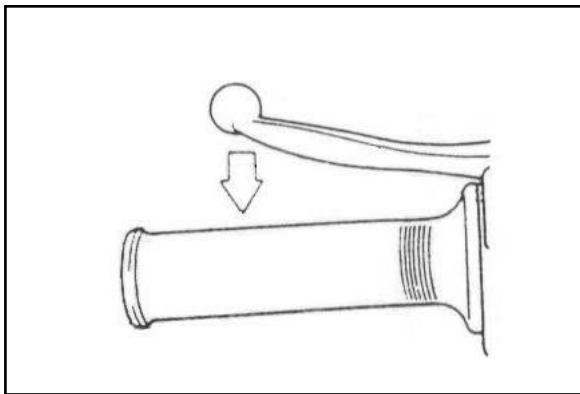
2. ブレーキアーム部の調整ナットを回して遊び調整をしてください。

ブレーキの遊びをナットで調整した時にブレーキアームピンが最後の位置になった場合はそれ以上の調整をしないでください

3. ブレーキを数回使用し、ブレーキを放した時にホイールが自由に回転するかをチェックしてください。

フロントブレーキ

ハンドルを握り右のレバーを引くとフロントブレーキが効きます。



注意

乗車前点検を怠りますと、身体や乗り物などに傷害及び損害を生じる場合がございます。

乗車前には必ず点検をおこない必要な調整または修理を毎日でも実行してください。

上記点検に数分の時間を要しますが実施する事より結果的に費やす時間を抑え長く走ることができます。

ブレーキ点検

1.フロント・リヤブレーキ

フロント・リヤブレーキの遊びを点検し状態が良い事を確認します。

低速で走っている時にブレーキを点検し、クリアランスが正しくなければ調整して下さい。

注意

ブレーキレバーの引きごたえが柔らかく感じられる場合は異常があると考えられますので異常が解除されるまで絶対乗らないで下さい。

2.ブレーキオイル（ディスク）

ブレーキオイルレベルを点検し、必要であれば補給して下さい。

FMVSS DOT3 またはSAE J1703 のブレーキオイルを使用して下さい。

3.ディスクブレーキパットの点検

注意

ディスクブレーキの整備が必要な場合、PGO取扱販売店にお持ち下さい。

ブレーキオイル漏れの点検

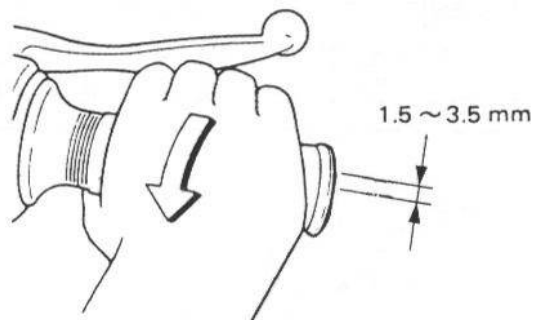
ブレーキレバーを数分間握り、ブレーキチューブのジョイント部分又はマスターシリンダーからオイルが漏れていないか点検を行って下さい。

注意

ブレーキオイルが漏れている場合は、非常に危険な状態ですのでPGO取扱販売店に修理をご依頼下さい。

スロットルグリップ

スロットルをまわしその作動とクリアランスを点検して下さい。グリップが自動的にもとの位置に戻るか確認して下さい。調整が必要な場合はPGO取扱販売店にお持ち下さい。



エンジンオイル

注意

平坦地でメインスタンドを立てエンジンを 2～3 分間あたためた後にエンジンを停止しオイル量の点検を行って下さい。



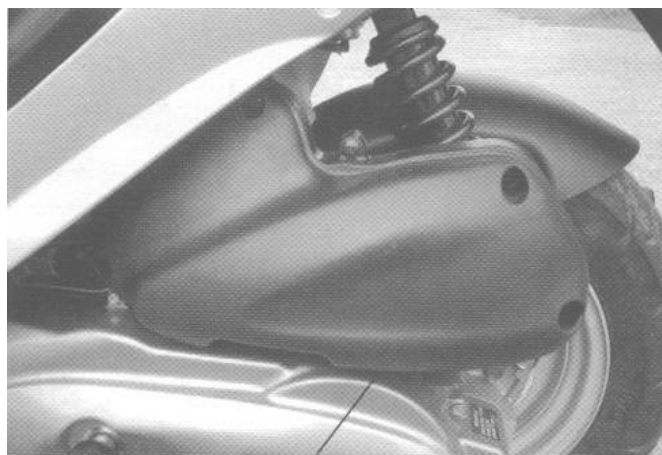
オイルレベルゲージ



エアクリーナーエレメント

エアクリーナーエレメントの機能は空気中の埃がエンジンに入るのを避けるものです。

但し、エアクリーナーエレメントの整備が正しく行われていなければ、埃が入ってしまうのでエアクリーナーエレメントを定期的に清掃して下さい。埃などがエンジンに入るとエンジンの磨耗や破損などの原因となります。



注意 エアクリーナーエレメントの清掃はPGO取扱販売店にて点検をご依頼下さい。

タイヤ

最高の性能と寿命を維持するためには以下の点に注意してください

1. タイヤの空気圧

運行前に、必ず基準値に従って空気圧を点検して下さい。

注意 荷物の重さ、運転者の体重、走行スピードによって異なりますので、それらの条件に従って調整して下さい。

通常の空気圧

前：1.50 kg/cm²

後：1.75 kg/cm²



A. タイヤの空気圧が高い場合

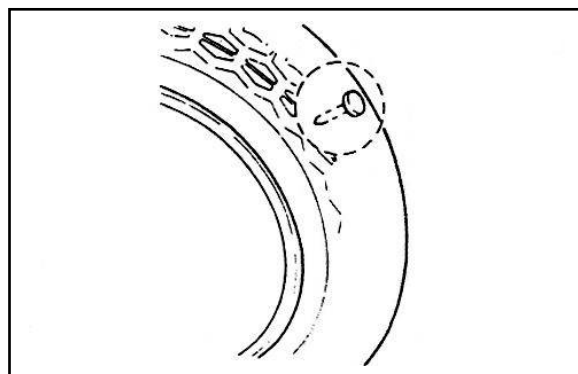


B. タイヤの空気圧が低い場合

2. 点検

運行前にタイヤが磨耗していないか点検して下さい。タイヤの外側に釘、ガラス、亀裂などが入っていないか点検して下さい。異常があった場合、PGO 取扱販売店にお申しつけ下さい。

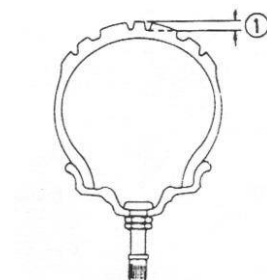
必要であれば、同規格のタイヤと交換して下さい。



3. 溝の深さの点検

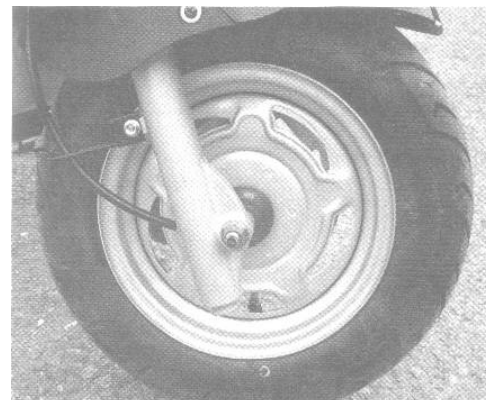
タイヤの溝が限度以上に磨耗していた場合、砂埃や雨天候時の運転では、滑り易くなります。

以下の絵を参照し、もし深さが **0.8mm** 未満であるならば、タイヤを交換してください。



注意

- 1 ウェアインジケーターが現れていて、タイヤの溝が減っている時に運転するのは、非常に危険です。PGO 取扱販売店にてタイヤを交換して下さい。
- 2 ブレーキ、タイヤに関係する部品の交換はPGO 取扱販売店にてお申しつけ下さい。



ランプ・シグナルライト

ヘッドライト、シグナルライト、テールライト、ブレーキランプ、ゲージランプが正常に作動しているか点検して下さい。

各種スイッチ

ヘッドライト、シグナルライト、ブレーキランプ、ホーン、スタートボタンなどのスイッチやメインスイッチの作動を点検して下さい。

ガソリン

タンクにガソリンが充分に入っているか点検して下さい。

使用ガソリン：無鉛ガソリン タンク容量 ：6.0L

注意

1. 給油の際、必ず無鉛ガソリンをご使用ください。
2. 給油口のギリギリまでガソリンを入れないで下さい。高温になった時、膨張し溢れ出す恐れがあります。
3. ガソリンは可燃性です。エンジンやマフラーの上に溢さないで下さい。

ブローバイガス還元装置

ブローバイガス還元装置はマフラーに設置し、マフラーから排出された汚染物を低下させる機能を持っています。



注意

ガス排気管に備えているブローバイガス還元装置を守るために、次のことを注意して下さい。

1. マフラーが非常に熱くなっているので、出来るだけ歩行者及び子供を離れて駐車して下さい。

2. 無鉛ガソリンを使って下さい。

(有鉛ガソリンの場合は、ブローバイガス還元装置が劣化します。)

3. 走行中にメインスイッチを切らないで下さい。

(大量な未完全燃焼混合ガスがブローバイガス還元装置に流れ込むと、高温によりブローバイガス還元装置が劣化する或いは破損します。)

4. 燃焼物のあるところでの運行、停車を避けて下さい。

5. エンジン回転を良い状態にしておいて下さい。

乗車する際の注意事項

1. 乗車する前に必ず全ての操作システム・機能をよく理解しておいて下さい。ご質問などございましたら、PGO 取扱店までお取合わせ下さい。
2. 排気ガスは有害となりますので閉めきった場所でエンジンをかけないでください。
3. 乗車する前に、サイドスタンドを元の位置に戻して下さい。怠りますと大変危険です。



エンジンスタート

1. メインスイッチをONにして下さい。"○"
2. スロットルが完全に閉まっている時に、ブレーキレバーを握り、スタートボタンを押して下さい。

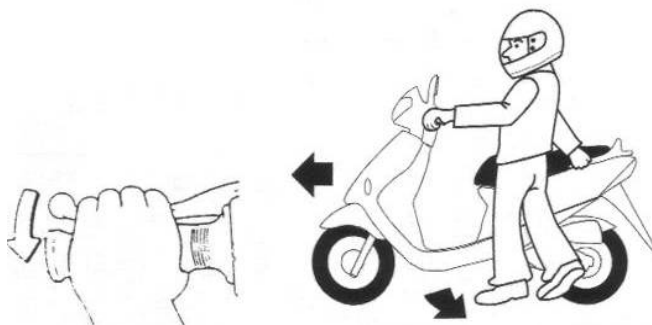
注意

エンジンがかからない場合は、スタートボタンを押さないで下さい。大量なバッテリーの消費を避けるために、5秒間以上ボタンを押したままにしないで下さい。

エンジン暖機

エンジンの使用寿命を長くするために、乗車する前1～3分程エンジンを温めて下さい。
エンジンがまだ温まっていない時は加速しないで下さい。

注意 「エンジン慣らし運転」についても参考にお読みください。

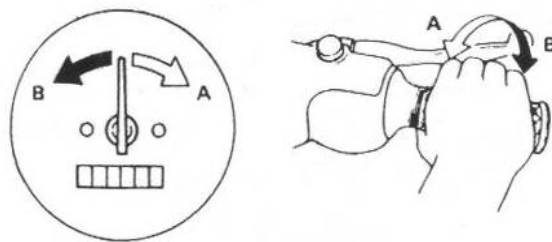


● 乗車 （ エンジン暖機後 ）

1. ブレーキレバーを握り、センタースタンドを下ろして下さい。
2. バックミラーで後方が見えるか確認して下さい。
3. 乗車する前に、ウインカーライトで合図を出し、前方を確認して下さい。
4. 右側のスロットルグリップをゆっくり回し、発進後ウインカーライトを消して下さい。

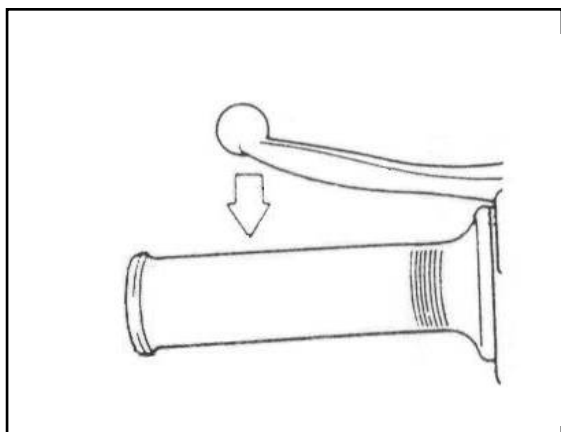
● 加速

スロットルグリップを回転させることによって、スピートを調整できます。手前にまわすと加速になり、元に戻すと減速になります。

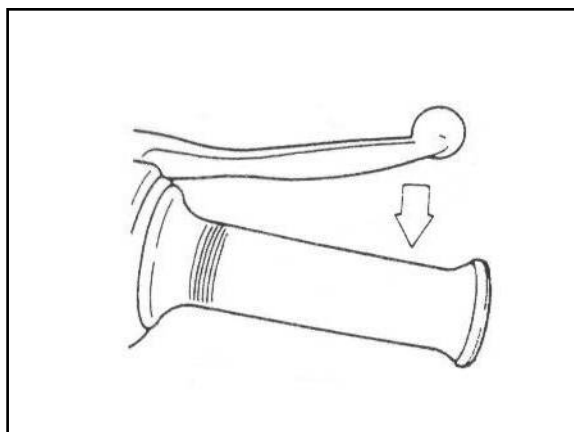


ブレーキ操作

1. スロットルグリップから、手を放して下さい。
2. フロントブレーキとリアブレーキを徐々に握ってください。



リ ア



フロント

注意

1. 急ブレーキ、急ハンドルはスリップや転倒の原因になり、危険です。
2. スクーターが傾いている時は、気をつけてブレーキをかけて下さい。

不適切なブレーキのかけ方はスリップする原因となります。

3. 建築現場に敷設してある金属板、レール及びマンホールが濡れていると滑りやすいので低速で通過して下さい。
4. 路面が濡れている時は、ブレーキの効き具合が悪くなることがあります。

下り坂では、ブレーキをかけながらゆっくり走って下さい。

エンジンならし運転

走行距離乗り始めて1 k mから1000 k mまではスクーターの寿命に一番影響する時です。

エンジンがまだ新しいので、1000 k mまでは控えめな運転をして下さい。

エンジンのどの部分も正常なクリアランスを得るような運転を心掛けて下さい。

エンジンを加熱させるような運転を避けて下さい。

以下の注意事項につきましてもよくお読みください。

1. 0～150 k m

1/2以上のアクセル開度は避けて下さい。1時間に5～10分間程の割合で、エンジンを冷やして下さい。常にスピードを変えながら運転して下さい。長時間同じスピードでは走らないで下さい。

2. 150～500 k m

長時間の1/2以上のアクセル開度の操作は避けて下さい。

3. 500～1000 k m

3/4以上のアクセル開度を避けて下さい。

注意

500 k mを超えたら、ギヤーオイル及びエンジンオイルを交換して下さい。

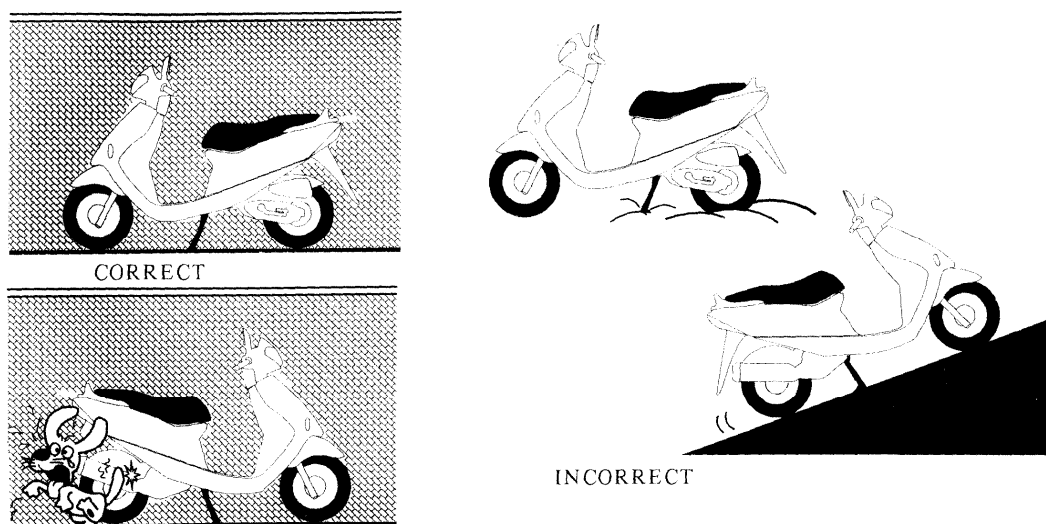
4. 1000 k m以上

アクセルを全開にしたままの長期間運転を避けて下さい。速度を変えながら運転して下さい。

注意

慣らし運転中にエンジンに問題がある場合は、PGO取扱店にお申しつけ下さい。

駐 車



駐車する際は、エンジンを止めキーを抜いて下さい。

注意

マフラーが非常に熱くなっているので、出来るだけ歩行者及び子供を離れて駐車して下さい。

また傾斜のある場所や不安定な場所では車が倒れることがありますので、駐車しないで下さい。

定期整備及び簡単な修理方法

本製品をより良く安全に運転してもらうために、定期整備・調整・潤滑油の補給等を行って下さい。

安全運転はお客様の義務です。定期整備及び潤滑油の補給は常に認識し、環境、天候、地形の影響による危険を回避する重要な要因とご理解して下さい。

注意

このスクーターは正常な舗装道路用に設計しております。舗装されていない場所を走る時はエンジンの寿命が縮まりますので、エアクリーナーの交換と清掃を頻繁におこなって下さい。

点検についてご不明なところがある場合は、PGO 取扱店へお申しつけ下さい。

定期点検一覧表

性能を良い状態に維持し安全にお乗りいただくために推奨するメンテナンスを行って下さい。

項 目	点 検 内 容	定期点検と走行距離による点検						
		1	3	6	9	12	15	18
		500km	2,500km	5,000km	7,500km	10,000km	12,500km	15,000km
エンジンオイル*	交換	○	3,000kmごとに交換して下さい					
オイルフィルター	交換	○	5,000kmごとに清掃又は必要であれば交換					
トランスミッション*	必要に応じて清掃又は交換	○	3,000kmごとに清掃又は必要であれば交換					
エアクリナー	必要に応じて清掃又は交換		○	○	○	○	○	○
エアフィルター	必要に応じて清掃又は交換		○	○	○	○	○	○
キャブオイル*	交換	○	○		○		○	
ディスク&ドラムブレーキ	オイル漏れと機能点検		○	○	○	○	○	○
クラッチシュー	点検し必要に応じて交換		○	○	○	○	○	○
リヤブレーキアーム	機能の点検と調整			○		○		○
タイヤ	磨耗の点検必要に応じて交換		○	○	○	○	○	○
ホイールベアリング*			○	○	○	○	○	○
フロントフォーク*	オイル漏れと機能点検	○	○	○	○	○	○	○
ステアリングヘッドベアリング*	適正でなければ調整			○		○		○
リヤフューザー*	オイル漏れと機能点検	○	○		○		○	
メイン/サイドスタンド	点検し必要に応じて交換	○	○	○	○	○	○	○
ボルト,ナット	必要に応じて増し締め調整	○	○	○	○	○	○	○
バッテリー*	電圧が12.8Vを維持するよう充電されるか確認		○	○	○	○	○	○
	電極を清掃し必要に応じてバッテリー液を補充		○	○	○	○	○	○
ハルフラリアンス*	エンジンが冷えてる時点検と調整	○		○		○		○
スパークプラグ*	必要に応じて清掃又は交換		○	○	○	○	○	○
Vベルト*	磨耗の点検必要に応じて交換			○	A	○	A	○
フューエルフィーディングシステム*	ひび割れや妨害物の点検							
	必要に応じて交換		○			○		
エンジンアイドル*	機能点検又は必要に応じてスロットルワイヤーの調整	○	○	○	○	○	○	○
EMS*	必要であれば点検し履歴を消去する	○	○	○	○	○	○	○

注意

1.「*」のついた作業内容はPGO取扱店での整備をおすすめ致します。

2.「A」は機能点検、または交換を示しエンジン性能がかなり低下した時におこないます。

注意2

ブレーキオイルの交換：

1. ブレーキマスターシリンダーもしくはキャリパーを分解すると同時に、ブレーキオイルを交換して下さい。
2. 常にオイルレベルを点検し、必要であればブレーキオイルを補給して下さい。
3. マスターシリンダー及びキャリパーのオイルシールは2年に1回交換して下さい。
4. ブレーキオイルチューブの交換は4年毎にして下さい。

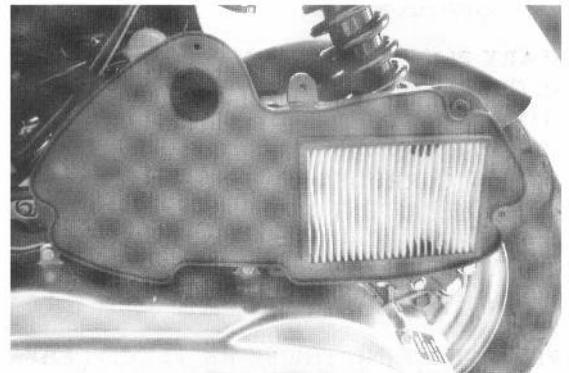
エキゾーストコントロールシステムの点検

三次元ブローバイガス還元装置を使っています。触媒はマフラーに固定されていますので、個別に整備することはできません。従って燃料、エア供給装置や点火装置を定期的に清掃、点検、調整する必要があります。

- (1) エアクリーナーの清掃は下記の説明を参考にして下さい。
- (2) プラグの点検をおこない。もしもプラグが汚れていた場合は清掃もしくは交換をしてください。
- (3) フューエルシステムを点検しフューエルホースに亀裂があったり、詰まっていた場合は清掃もしくは交換して下さい。
- (4) マフラーの排気漏れがあるか点検し、必要であればマフラーを交換する或いは増締めして下さい。
- (5) アイドリングを点検し、スロットルケーブルやガスケットを交換した場合は固く締めてください。

エアクリーナーエレメントの清掃

- 1.エアクリーナーボックスのネジを緩めて下さい。
- 2.エアクリーナーボックスのカバーを取外して下さい。
- 3.フィルターを取出して下さい。
- 4.エアガンで清掃して下さい。
- 5.エアクリーナー所定の位置に組付け空気がエンジンに入らないようしっかりネジを締付けて下さい。



注意

ピストンやシリンダーが壊れる恐れがありますのでエアクリーナーを組付ける前にエンジンをかけないで下さい。

スパークプラグの点検

プラグはエンジンにとって最も重要な部品であり、また点検しやすいところでもあります。

プラグの状態によってエンジンの調子が判断できます。理想的な電極の色は薄茶色です。

もし問題があれば、PGO 取扱店に点検に出して下さい。

時間が経つにつれて熱やほこりの影響で腐食したり、焼焦げたりするのである一定の期間で交換して下さい。腐食したり、焼焦げたりした場合は新しいプラグに交換して下さい。

- ・標準プラグ : CR6HSA (NGK)
- ・プラグのクリアランス : 0.6~0.7mm

プラグを取付ける時に、シーリングワッシャとネジの表面をきれいにし、新品のシーリングワッシャを使い、締付けして下さい。

- ・締付トルク : 1.2k g f・m

注意

トルクレンチを持っていない場合は、指で $1/4 \sim 1/2$ に回して下さい。後ほどレンチで締付けて下さい。

ギヤオイル交換

- 初回は300k mで、その後は2500k m~3000k m
- ごとに交換して下さい。
- 交換時容量 : 90 c c SAE140
全容量 : 110 c c

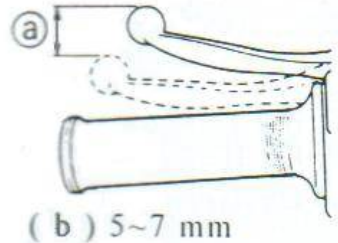
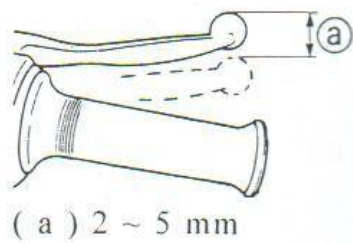


ブレーキ調整

ブレーキレバーのクリアランス

(a) フロントブレーキレバー : 2~5mm

(b) リヤブレーキレバー : 5~7mm



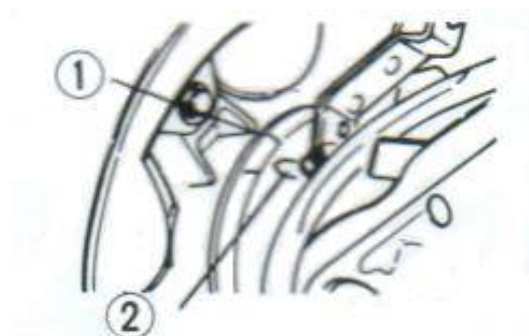
注意

ブレーキの遊びが合っていない場合は、PGO 取扱店にお申し付け下さい。

ブレーキライニングの点検

ライニングの点検にはインジケーターがあります。ブレーキを外さずに、インジケーターを見る事によってブレーキライニングが擦り減っていないか確認できます。インジケーターがワーニングラインを指した場合はPGO 取扱店に点検、交換についてお申し付け下さい。

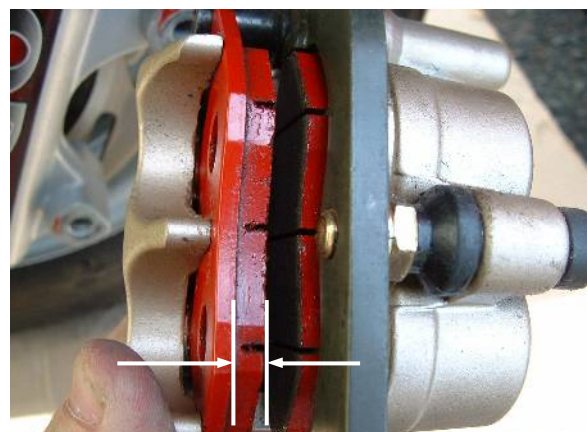
1. インジケーター
2. ワーニングライン



フロントブレーキパッド点検

- 1 パッド中央にある溝が無くなったとき
- 2 ブレーキパッド残量が 2 mm以下になったとき

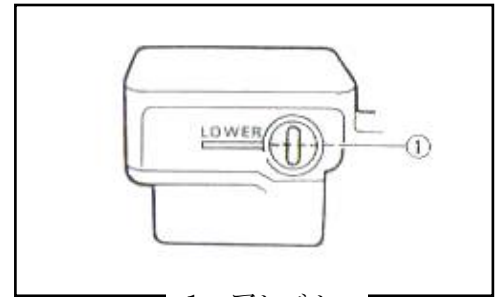
以上のようなときは、PGO 取扱店で交換を依頼して下さい。



ブレーキフルード点検

リザーバータンク内のフルード液量が少ないとブレーキ液に空気が入る原因になります。

ブレーキ液に空気が混入すると油圧が伝わりにくくなり制動力が著しく低下し危険です。こまめに液量を点検して下さい。



1.ロアレベル

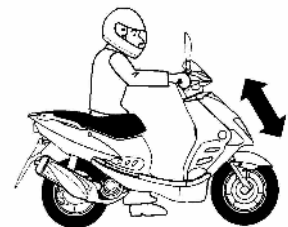
1. 液量点検時はリザーバータンクが水平になるようにハンドルを切ってください。
2. ブレーキフルードは必ず指定の規格品を使用して下さい、それ以外の使用はシール類を痛め液漏れの原因になります。

純正指定規格： FMVSS DOT3 or SAE J1703

3. 補充するフルードは同じ種類の物を使用してください、混ぜる事は避けてください。
4. マスターシリンダー内に水が入らないようご注意下さい、水が混ざるとフルードの沸点が下がり、フルード内に気泡を生じさせ大変危険です。
5. フルードは塗装面を侵食します、こぼしてしまった時は直ちに拭き取ってください。
6. ブレーキの整備は資格を持つ整備士に依頼して下さい。

フロントフォーク点検

注意！ アクシデント回避の為に、日常点検を励行して下さい。



2.FUNCTION CHECK

1. 目視による点検
インナーパイプの傷、損傷、オイル漏れを点検する。

2. 作動点検
車輛を平坦な場所でハンドルを持ちフロントブレーキを掛けたまま前後にゆすり、フォークの作動を点検する。

ヒューズ交換

1. ヒューズはバッテリーの側に位置しています（ステップボードの下）。
2. バッテリーカバーのネジを 2 本弛めて取外して下さい。
3. ヒューズが焼焦げていたら、メインスイッチを切って下さい。そして関連するスイッチを切って下さい。そして正しいアンペアの新品に交換して下さい。再びスイッチを付けて作動状況を確認して下さい。もし新しいヒューズがまたすぐ焼焦げてしまったら、PGO 取扱店で点検してもらって下さい。



バッテリー

注意

1. バッテリーは完全密封性の製品を使用されていますので、電解液を追加する必要はありません。
もしバッテリー液が漏れた時は PGO 取扱店にご相談ください。

注意

バッテリーが傷みますのでシールドキャップは、はずさないで下さい。

携帯電話充電用ソケット

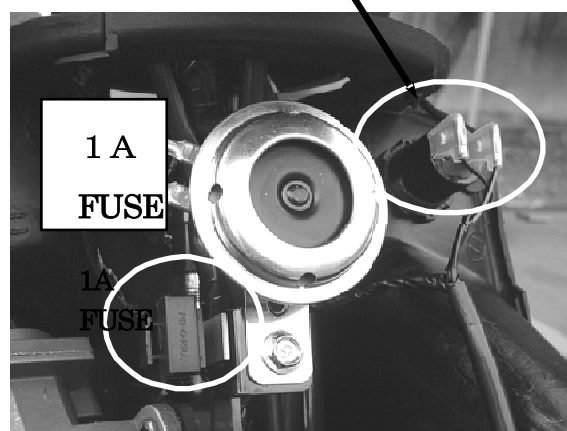
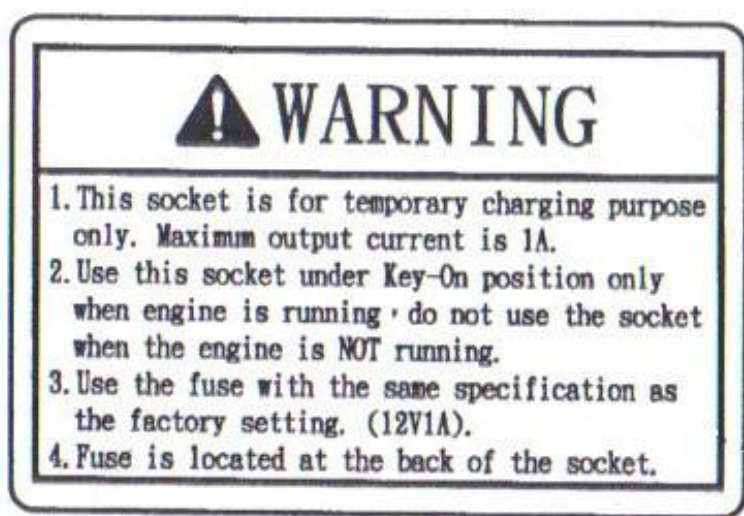
使用する前に

- 1 携帯電話充電用シガーソケットは、右図の位置にあります。
- 2 使用する前にラベルにある注意書きを良くお読みになってから使用してください。

注意

- 1 一時的な携帯電話の充電だけを目的としてこのソケットをご使用下さい。その他の目的では絶対に使用しないで下さい。最大出力電流は1 Aになります。
- 2 エンジンを始動しているときのみこのソケットをご使用下さい。エンジンを始動していないときには絶対にソケットを使用しないで下さい。バッテリー上がりの原因になります。

- 3 ヒューズは出荷時設定と同じ仕様のものを使用して下さい。
(12V1A)
- 4 ヒューズはフロントカバー内、ソケットの奥に位置しています。

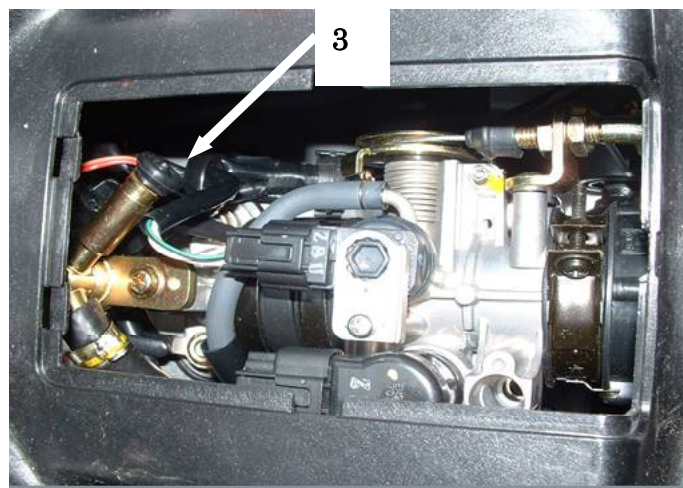
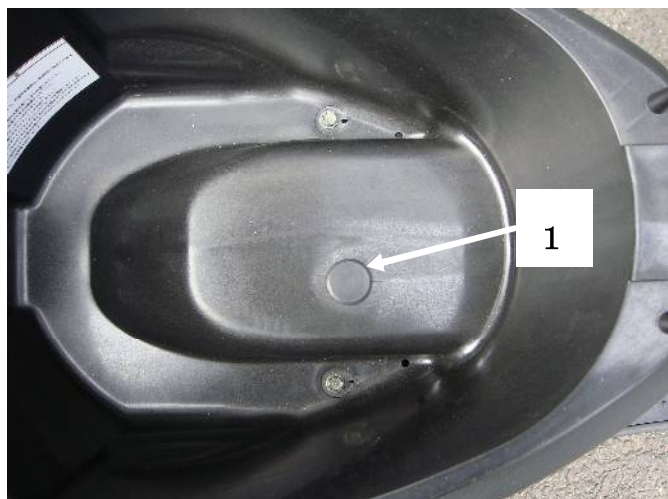


* 万が一ソケットを使用した事により携帯電話に不具合が生じた場合の保証は一切致しません。

燃料排出装置

1ヶ月以上エンジンを掛けずに保管していた場合、燃料ホース内の燃料が悪くなりエンジンが掛からないことがあります。その時は以下の手順で悪くなった燃料を排出してください。

- 1 ラゲッジボックス内のゴムキャップを取り外します。
- 2 メインキーをONにします。（この時エンジンは始動しないで下さい）
- 3 指でドレインバルブ（3の部分）を押し燃料を排出してください。
（ラゲッジボックスを取り外す必要はありません。）
- 4 燃料ホース内の悪い燃料を排出後、エンジンを始動することができるでしょう



EMS簡易点検

- 1 シート下にEMS簡易点検用のプラグがあり、そこにEMS簡易診断機を挿します。
- 2 メーター内のEMSチェックランプが点灯しない場合、EMSは正常に作動しています。
- 3 EMSに問題がある場合チェックランプが点滅しますので、そのときはPGO正規取扱店にて点検するようにしてください。



EMSコードテーブル

不具合箇所	EMSコード
スロットルバルブセンサーの不具合	0 LONG 6 SHORT
インテークマニホールドプレッシャーセンサー不具合	0 LONG 9 SHORT
油温センサーの不具合	1 LONG 1 SHORT
O2センサーの不具合	1 LONG 7 SHORT
インジェクターの不具合	3 LONG 3 SHORT
イグニッションコイルの不具合	3 LONG 7 SHORT
燃料ポンプや回路の不具合	4 LONG 1 SHORT
O2センサー回路の不具合	4 LONG 5 SHORT
ISCの不具合	4 LONG 9 SHORT
クランクシャフトスピードセンサーや回路不具合	6 LONG 6 SHORT
ECUの不具合	点灯
正常	消灯

諸 元 表

型 式	PA125DAE
外形寸法：	
全 長	1710mm
全 幅	645mm
全 高	1060mm
シート 高	750mm
軸 距	1210mm
乾燥重量	105 k g
エンジン：	
型 式	空冷 4 ストローク
型 番	C2E5
シリンダ	単気筒
排 気 量	124.9 c c
スタータシステム	セルフスタート
潤滑システム	セパレート
潤滑油	SAE15W40
容 量	0.9L
ギヤーオイル：	
型番	SAE140 レベルのオイル
定期交換オイル量	90 c c
総容量	110 c c
エンジンオイル型番・定期交換量	SAE15W40 0.75L
オイルタンク容量	0.9L
エアクリーナーエレメントの形式	ドライフィルター
燃料：	
ガソリン	無鉛ガソリン
燃料タンク容量	6.0L
点火プラグ：	CR 6 H S A (NGK)
クラッチタイプ：	ドライタイプ 遠心式
変速機：	無段階変速式 (Vベルト式)
タイヤ：	
サイズ (前輪)	3.50 - 10
(後輪)	3.50 - 10
エレクトリックシステム	
イグニション	EMS
ジェネレーター	(エンジンマネジメントシステム)
バッテリー	YTX7A-BS
バッテリー容量	12V6AH
ランプタイプ/数量：	
フロントランプ (HI/LO)	12V - 35W/35W×1
テールランプ/ストップランプ	12VLED
ウインカーランプ	12V - 10W×4
スピードメーターインジケータ	12V1.7W×2
ハイビームインジケータ	12V1.7W×1
ウインカーインジケータ	12V1.7W×1

保 証 書

お買上げ頂いたお車を構成する各部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、この保証書に示す期間と条件に従って、下記の保証修理を致します。

一. 保証範囲

1. 保証内容：

お車を取扱説明書に従った整備をおこない正常に使われている上で万一、部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、無料修理いたします。(保証修理は部品の交換もあります)(以下この無料修理を保証修理といいます)。なお取外した部品は弊社の所有となります。

2. 保証期間

新車を登録または届出した日から 1 年間もしくは走行距離 15,000 km までのいずれか早い方までが保証期間となります。

3. 保証対象

PGO日本代理店：(有)ナーベルフォースが販売する PGO ブランドスクーター

二. 保証修理の受け方：

保証修理をお受けになる場合は、お車とこの保証書をお買上げの販売店へお持ち下さい。
これにより保証修理を致します。※提示されない場合は、保証修理をいたしかねます。

三. 保証できない事項

1. 次に示す事項は保証修理いたしません。

- (1) 時の経過で発生する不具合（塗装面などの自然退色、メッキ面などのさび、消耗品の劣化など）
- (2) 機能上影響のない感覚的現象（音、振動、オイルのにじみなど）

2. 次に示す事項は保証修理いたしません。

- (1) 地震・台風・水害等の天災・事故・火災に起因する不具合
- (2) 純正部品及び指定する油脂類（オイル・ブレーキ液・冷却液等）以外の使用に起因する不具合。
- (3) 煤煙・薬品・鳥糞・塩害等に起因する不具合
- (4) レース・ラリーなどによる酷使或は一般に車輛が走行しない場所での走行に起因する不具合。
- (5) 法令に違反する改造及び弊社の認めていない改造に起因する不具合
- (6) 盗難にあったお車
- (7) 無免許運転に起因する不具合
- (8) 保管または整備不良に起因する人為的な不具合

3. 次に示す費用は負担いたしません。

- (1) 消耗部品の費用（ライト類・ゴム類・ワイヤー類・ネジ類・ピストン・スパークプラグ・ワッシャー類・ブレーキパッド・ブレーキライニング・V型ベルト・ヒューズ・など）
- (2) 油脂類・燃料・バッテリー液などの交換補充の費用
- (3) お車を使用出来なかった事による不便さ及び損失など（電話代・レンタカー代・休業補償・営業損失等）
- (4) 車両修理に伴うレッカー代
- (5) 万が一携帯電話充電用ソケットを使用した際に発生した携帯電話の不具合

四. 保証修理をお受けできない事項

1. 法令及び取扱説明書に示す取扱方法と異なる使用方法及び弊社が示す仕様の限度（最大積載量・乗車定員）をこえて使用した場合
2. 下記の点検整備を実施していなかった場合
 - (1) 乗車前の点検
 - (2) 弊社の指定する定期点検
3. 定期点検整備記録簿を保持していなかった場合
 - (1) 定期点検整備記録簿を大事に保管してください

五. 保証の発効

この保証書は、お買上げ頂いた正規販売店が保証登録書に必要事項を記入、捺印することにより有効となります。

六. 保証の継承

保証期間が残っているお車をお買上げの際は、ご購入後、直ちに正規販売店へお車と保証書をお持ちになり、名義の書換え、必要な点検（有料）と必要事項の記入、捺印をお受け下さい。これにより残りの期間を保証いたします。

七. 保証の適用

この保証書は、日本国内で販売し使用されることを前提としております。従って海外へ持出す場合は、その時点で保証が打ち切りとなりますのでご注意ください。

＊この保証書は、本書に明示された期間と条件をもとに無料保証をお約束するものです。この範疇を超えたものに関しては、原則として有償となります。

PGO SCOOTER 日本代理店
有限会社 ナーベルフォース
お問合せ先：
埼玉県戸田市早瀬2-26-28
TEL：048-449-0021 FAX：048-449-0022